令和6年度 第1回湖西市文化財保存活用地域計画協議会議事録

- 1 日 時 令和6年6月10日（月） 午前10時～午前11時50分
- 2 場 所 湖西市健康福祉センター3階 会議室
- 3 出席者 委員 西田かほる委員・牧野茂委員
永田晴康委員・渡辺貢委員
大林裕子委員・二橋和久委員・田村隆太郎委員
事務局 松山淳（教育長）
太田英明（産業部長）
白井保司（文化観光課長）
鈴木紀子（文化観光課 文化係長）
大須賀広夢（文化観光課）

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴者 無

6 次 第

【教育長あいさつ・委嘱状交付】

【委員・事務局自己紹介】

【会長互選】 西田委員を会長に選出

【議 題】

（1）文化財保存活用地域計画について（事務局説明）

（事務局）委員が考える湖西市の歴史文化の特性・将来像はなにか？

（委員）やはり市民意識調査にみられるような新居関跡・佐吉生誕地・湖西窯。窯跡は古墳も絡め、これらを日本だけでなく世界的にPRしたい。

（委員）知らない文化財が多い。観光の面から、ハ゜ーハ゜ーではなくSNSで良いので、文化財情報をひとめで見られるようになると観光の材料となりよい。

（委員）佐吉のまちの印象。こどものころの佐吉の映画の印象が強い。歴史を大切に、小中学生が、学ぶ機会を作ってほしい。観光の材料になることも期待する。

（委員）明治期に作られた鉄道唱歌は、各地域の風景、伝承、名勝が歌詞になっている。28.29番にこの地域のことを書かれているが、海や湖、浜名の橋、富士山など、風光明媚な地域という印象が押しだされている。湖西は地形や地理的なイメージが紹介されている。湖西の魅

力である湖西の自然・景色を残したい。

そして、関所があり、家康ゆかりの地もあり、県境ゆえの特性もある。佐吉出生の地も湖西の自慢であり、特徴ある文化財を後世に継承したい。

(委員) 湖西には新居関跡以外にもPRすべき文化財がたくさんある。旧湖西は、本興寺。もっと市は文化財、PRにお金をかけてほしい。市民を巻き込んで、市がタイアップしないと残そうと思ってもなかなか続かない。昨年度のどうする家康の大河の際もあまり市がPRしておらず、残念であった。また、市民を巻き込んだ体験型のイベントが不足していると感じている。市民とタイアップして、PRと活用をしてほしい。

(委員) 新居関跡は当然イメージが強い。外からくると、浜松側の浜名湖は平野部があり、湖西は湖と山のイメージ。山があるから、湖西窯や大知波峠廃寺などが残っている。そして、県境の三河との関係も静岡県の中では特徴的。文化財がおもしろいと知ってもらうために、文化財の関心をどのように広めるかが重要。多くの人が文化財を大切に思ってくれるようになるとよい。

(会長) 湖西市は浜松市に比べコンパクトな規模であり、コンパクトゆえにできることがあるのではないか。また明治期の廃藩置県の際に、愛知県に入りたいという住民の要望があった。意識面でも県境、三河との関係という特性があるのではないか。

そして古い時代、白須賀村は、一村一郡であった。なぜ一郡なのか、古代史から見てもわからないため、興味深い。

市民意識調査は、よく知られた大きい関所、本興寺などがあがっているが、地域の人に身近な石碑などを教えてください、と聞くなど、計画では地域の人が積極的に身近にあるものを調べてほしい。

(委員) 未指定の文化財など、知られていない情報も随時更新して、情報発信できるとよい。

(2) 文化財の現状と課題 (事務局説明)

(事務局) 文化財に関係する分野や自身の環境や分野から課題に感じていることはなにか？

(委員) 公開場所。これまで公開されていない文化財を関所史料館などでジャンルにこだわらず随時公開してほしい。

また、地震や津波の被害も心配。水没や塩害も懸念される。近隣の図書館や国・県と協力して文化財防災ネットワークなどの連携組織をつくってほしい。

湖西中学校など、被災した文化財を保存するために、土砂災害などの心配がない保管施設も必要。

(事務局) 今のところ、収蔵庫の新設の予定はない。

(委員) 収蔵施設は、かつて図書館の西側に博物館を建てる計画があったが、達成しなかった。昔から思いはあった。民具も公開していない。財源を充てる行政側の努力が必要。

所属している夏目甕麿顕彰会も継承者がいない。かつては居た地域の歴史に詳しい人も少ないため、自分たちで月1回勉強会をはじめた。地域の人を誘って参加してもらっている。甕麿の研究をしている伊丹市では博物館スタッフが世話＝事務局をして甕麿の研究会をしている。世話をする人がいないと、活動が続かないが、湖西は文化財の職員数も少ないので職員を確保することも必要。昔は女河浦海水浴場で新所の青年団に教え、水上おどり（鷺津節）を行った。みんなで歴史を楽しむことを、地域の中で行なったらどうか。

(委員) 文化協会でも会員数の減少はあり、自分が所属する大正琴も90～70代である。高齢化は全国的な問題。こどもは伝統的な芸能よりもダンス部などに参加している。伝統的な文化活動は人気がなく、コロナ禍で、だいぶ気持ちがそがれた感がある。民謡保存会や湖西歌舞伎も運営に支障が出ていると聞く。芸能的・文化的な活動を継続していくことに苦勞している。

市へのお願いであるが、土日に市や観光のイベントと、文化協会のイベントの日が重なると来場者に影響するので、せめて同じ課の中だけでもイベントを分散させてほしい。

学校教育の中で、伝統文化体験などの事業もあるが、郷土学習を単発ではなく長期的に実施し、さらに充実させてほしい。学校の教育に対し強く組込むことで、将来的に戻ってくる可能性がある。

(委員) 市役所の新庁舎のワンフロアに土器の展示スペースを設けられないか。または統廃合で廃校になった校舎など、ひとつの場所で湖西市の歴史が見られるとよい。

商工会の湖西焼きは岡崎中のあたりの粘土を使っている。岡崎中のあたりには、私有地に窯跡が残っているというので、買い上げて、登り窯を復元してこどもに体験させたい。こどもに、ものづくりのまちという意識をつなげたい。

(委員) どういったものがあるのか、何が残っているのか文化財の把握ができていない。周知する努力が欠けていると感じる。

地域で文化財に目を向ける人が減っている。自治会の中でも、祭りの担い手を勤めを理由に断られ、できる人に負荷がかかっている。生活

の中で余暇や文化にさく時間がない。

住民を巻き込むためにアピールの手法が課題。

(委員) 課題を聞いて、どうしたら解決できるか、という点を聞きながら考えた。施設をつくっても見にきてもらわなければ意味がない。公開や体験など、文化財にかかわるハードルをさげる取組を考えることが必要。そういった施設ができれば、当然職員数も増える。またせっかく文化観光課なのだから、観光係も一緒に行っていければよい。

無形民俗の担い手不足は、どこの市町でも課題。国指定でも担い手は不足している。県としては無形民俗アドバイザーを派遣して支援しているので活用してほしい。

掛川市の事例としては、高校で民俗芸能の祭りをを行う部活動もあるが、高校自体の生徒数が減り、活動は少し下火になっている。祭りの運営に外部の人を入れるという方法もあるが、外部の人の存在が大きくなり、地域の祭りではなくなることもある。

県の文化財防災救済員（ボランティア）制度もある。活動目的は災害時の救済だが、それだけではモチベーションが続かない。県では文化財に触れる機会の提供など、楽しみを提供することを事業にしている。複数の課題を組み合わせ、結果的に市民に文化財を楽しんでもらえるとよい。

市民に対する課題はあるが、この計画では、観光やインバウンドなどのターゲットはどう考えるか？

(事務局) 文化財を把握し、PRし、市民の文化財への関心を高めていき、その後に活用していきたい。

(委員) 観光面では、寺道などのパンフレットを作ることで観光PRはしている。もっと人の目につくようにPRしたい。

(委員) 市民、市外ともに、文化財を見に行きたくても、交通の便がない。土日はバスもなく、タクシーもつかまりにくく、良い文化財があっても手段がない。アクセス方法を考えほしい。

道の駅はたくさんの方が来るので、湖西市について発信するものや観光案内所を置くなど、PRの場を設けたらどうか。

刊行で取り組んでいるポケモンGOとのコラボは、外国人や若者向けによい取り組みだと思った。

(会長) 委員の意見を集約すると、「把握」「収蔵」「担い手」などがキーワードのようだ。浜松の学生でも、浜松には歴史がないからつまらない、という学生がいる。歴史がないのではなく、知らないだけであり、小中学生の頃から郷土の歴史をつたえるのは重要だと思う。あまり文化財に関心がない小中学生のこどもの視点から見ることで、

市民意識調査とは違った結果が得られるかもしれない。協議会委員は文化財に関心がある人たちである。関心がない人に聞くことで、どう知ってもらえるのかについてヒントになるのではないか。

(委員) 湖西中の収蔵スペースはどのくらいあるか。

(事務局) 9教室すべてを展示室として使用しており、収蔵スペースはほとんどない。

(委員) 学校は展示や体験などに使い勝手がよい場所になる。

【次回日程】

令和6年8月20日(火) 10時～